



奇跡の復活

校長

【言葉の力を感じよう】

『思っていたより、数十倍、数百倍、数千倍しんどいです。三日間以上ご飯も食べられてない日が続いています。でも負けたくない。』

『今日久々に、ベットの上から空を見上げました。外の光でさえしんどく感じてしまうほどでしたが、夕日が沈み、空が青くてとっても綺麗です。みんなは今何をしているのかなって思います。』

これらは、競泳の東京五輪代表に内定した池江璃花子選手の闘病時代の言葉です。

10代から日本を代表する選手として活躍した彼女を、病魔が襲ったのは突然でした。当時は、五輪どころか命に関わる事態といわれていました。抗がん剤などの治療を受け、2019年12月に退院しました。その直後のコメントでは「2024年のパリ五輪を目指す」と語るなど、長いリハビリ生活が始まるのかと思いきや、約1年半後の2021年4月の東京五輪代表選考会を兼ねる日本選手権に出場し、見事に2種目で優勝し、日本代表に内定しました。

一般的に、成人の急性リンパ性白血病の5年生存率は30～40%です。治療を終えても元どおりの生活ができるとは限りません。そのような中でトレーニングを積んで大会に臨み、復帰を遂げたのですから、まさに奇跡の復活といえます。しかし、その後SNSで池江選手に対してオリンピック出場辞退を求める声が寄せられました。池江選手は、「非常に心を痛めたメッセージもあった」と心境を明かしています。世の中が便利になった反面、様々なSNSによる誹謗中傷が絶えません。

児童の皆さんには、情報モラルをきちんと守り、正しく安全にタブレット端末を使うとともに、言葉を大切にして、他人への優しさや思いやりをもった人になってほしいと思います。